

宮崎県における口蹄疫発生情報

発生状況

4月25日現在

No	区分	発生場所	発生日	農場概要	経緯
1	患畜	都農町	4月23日	繁殖牛飼養農家 (16頭飼養)	<p>4月9日 診療獣医師が飼養牛の1頭の口腔内にびらんを認め家保へ病性鑑定依頼。 家保が立入調査を実施したが、同居牛に異常がなかったため、経過観察措置。</p> <p>4月16日 同居牛1頭に発熱、食欲減退、口腔内にびらんを確認。他の1頭に流涎を確認。</p> <p>4月17日 家保が立入調査。16日に流涎が確認された牛の舌にびらんを確認。</p> <p>4月19日 家保の立入調査で新たに発症牛1頭を確認。症状が確認された4頭から検査材料を採取し、動物衛生研究所（動衛研）へ送付。なお、イバラギ病等の疾病については、陰性が確認。</p> <p>4月20日 動衛研において、すでに病変が治癒していた1頭を除き、3頭の検体について、PCR検査実施。 3頭全てが陽性。 3頭及び同居牛13頭を疑似患畜と判断。</p> <p>4月23日 動衛研における抗原検出検査（ELISA）の結果、口蹄疫（O型）の患畜と確定。</p>
2	疑似患畜	川南町	4月21日	乳・肉複合経営農家（65頭）	<p>4月21日 動衛研における検査材料のPCR検査で陽性を確認し疑似患畜と判断。 1例目農場から約3kmに所在。</p>
3	疑似患畜	川南町	4月21日	肉用牛肥育農場 (118頭飼養)	<p>4月21日 4月20日診療獣医師が異常牛を通報。 同日採取した検査材料を動衛研へ送付。 動衛研におけるPCR検査の結果、陽性が確認がされ、疑似患畜と判断。 2例目農場から約400mに所在。</p>

4	疑似患畜	川南町	4月22日	肉用牛繁殖農場 (65頭飼養)	<p>4月21日 飼養牛に舌部の潰瘍等の臨床症状が確認。宮崎県が立入調査。 検体を動衛研に送付。</p> <p>4月22日 PCR検査で陽性を確認し疑似患畜と判断。 2例目農場から約200mに所在。</p>
5	疑似患畜	川南町	4月23日	肉用牛一貫経営75頭飼養	<p>4月22日 朝、畜主が飼養牛の発熱を確認し通報。県が立入調査実施。 流涎等を確認し材料採取。動衛研のPCR検査の結果、陽性を確認。 疑似患畜と判断。4例目農場から100mに所在。</p>
6	疑似患畜	都農町	4月23日	水牛・豚飼養44頭 (水牛42) (豚2)	<p>4月22日 県が立入検査。 異常はなかったが、1例目と疫学関連農場であることを踏まえ、材料採取。 過去に採取していた材料とあわせ動衛研へ送付。 PCR検査の結果3月31日採取材料で陽性確認。 疑似患畜と判断。 1例目と飼料会社が共通。</p>
7	疑似患畜	川南町	4月25日	肉用牛肥育農場 (黒毛和腫725頭飼養)	<p>4月24日 農場専属獣医師が口蹄疫様症状を認め、県に通報。 同日、県は検査材料を動衛研へ送付。</p> <p>4月25日 PCR検査で陽性を確認。 疑似患畜と判断。 1例目から3.4km、2例目から約100mに所在。</p>

特記事項

- 4月25日、7例目（疑似患畜）が確認された。
 - 1例目は、4月23日、口蹄疫（O型）の患畜と確定された。
 - 宮崎県は、今後、他県に家畜防疫員の派遣を要請。
 - 1例目に対応した獣医師からの情報提供
- 診療経過状況

- ・ 往診依頼：前日の夕方から流涎、食欲廃絶。
畜主が翌朝体温を測ると40.3℃、流涎、食欲廃絶が認められたので農家が往信依頼（8時）
- ・ 初診：流涎、食欲廃絶の症状以外なく口腔内の異常は認められなかった。
往診時刻（11時頃）。
なお、初診時には軽度の発熱（39.3℃）が認められたが、半日後には消失。
初診時には流涎と食欲不振だけしか認めない可能性あり。
- ・ 診療3日目：上唇基部に直径3mm大の潰瘍を1カ所認め、
同時にすぐ横の直径3mm大の丘疹部（水疱ではない）を手でこすると、脱落し潰瘍を形成した。
また、舌尖端に2cm×3mm程度の表皮の脱落と中央部に退色が認められた。

栃木県の対応

- 県内で飼養される偶蹄類（牛、豚、めん・山羊等）家畜の異常の有無について全飼養舎から聞き取り調査を実施したが、異常はなかった。
- 家畜の健康観察や畜舎消毒等の防疫対策を飼養者に徹底した。
- 宮崎県知事からの要請を受け、家畜防疫員2名（県職員）を派遣した。

※詳しい情報は下記の農林水産省ホームページをご覧ください

http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmd/index.html